

2024年2月13日

各位

消費者信用生活協同組合
理事長 大坪 勝利
(公印省略)

生活相談・貸付事業の「今とこれから」を考える集いのご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃は当組合の事業に対して温かいご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さてこの度、表記のつどいを別紙の内容にて開催することとなりました。

総務省の2022年の家計調査によると、二人以上世帯の平均貯蓄額は1901万円で4年連続の増加とされています。貯蓄の種類は預貯金が増加しており、国は「貯蓄から投資へ」と呼び掛けています。

他方で、勤労世帯の約1割、母子世帯では約3割が貯蓄ゼロという格差社会の現実があります。コロナ禍で実施された社会福祉協議会の特例貸付は382万件、1兆4431億円もの利用があり、家計の脆弱性が浮き彫りになりました。

貯蓄がない世帯は、車の購入、卒業・就職、転居、事故、病気など一時的にまとまった資金が必要な場合、借入に頼らざるをえません。そのため一時的かつ高額な家計支出を平準化する機能をもつ貸付制度の重要性が高まっています。

このような状況を踏まえ、生活相談・貸付事業を実施する生協と生協関連団体や関係者の皆さま、その分野の研究者が集まり、今日の経済環境の中で果たしている役割や課題と将来展望について考えるつどいを開催します。

かつての多重債務問題から生活困窮問題へと社会的課題が変化した中で、各団体の実践を踏まえ、これからの貸付や家計相談のあり方、そして生活困窮者支援の実効性を高める方策を考えます。

ご多忙の折とは存じますが、多くの皆さまのご参加をいただくと幸いです。尚、参加お申し込みは添付の申込用紙にてお願いいたします。

敬具

「今とこれから」を考えるつどい

～生活相談と一体となったセーフティネット貸付の課題と展望～

昨今、「貯蓄から投資へ」が叫ばれており、2人以上世帯の平均貯蓄額は1901万円と4年連続の増加となっています。

他方、勤労世帯の約1割、母子世帯では約3割が貯蓄ゼロという格差社会日本の現実があります。(2022年総務省家計調査報告)

貯蓄がない世帯は、車の購入、卒業・就職、転居、事故、病気など一時的にまとまった資金が必要な場合、借入に頼らざるをえません。そのため、一時的かつ高額な家計支出を平準化する機能をもつ貸付制度の重要性が高まっています。

今回、「顔の見える貸付のセーフティネット」として生活相談・貸付事業を実施する団体と研究者が集まり、事業の現状と課題、将来展望について考えるつどいを開催します。

かつての多重債務問題から生活困窮問題へと社会的課題が変化した中で、セーフティネット貸付の実践を踏まえ、これからの家計のあり方や生活困窮者支援の実効性を高める方策を考えます。

第1部 生活相談・貸付事業への期待と提言



角崎洋平 日本福祉大学准教授
福祉政策理論、福祉的貸付、家計改善支援等を研究



佐藤順子 佛教大学講師
生活福祉資金や母子家庭支援施設利用者の家計相談のあり方を研究



小関隆志 明治大学教授
ソーシャル・ファイナンスによる金融包摂を研究

第2部 事業の現状と将来ビジョンを語る

報告団体

一般社団生活サポート基金

生活クラブ千葉：くらしと家計の相談室

みやぎ生協：くらしと家計の相談室

消費者信用生協

— * — * — * — * — * — * — * — *

日時	2024年3月16日(土) 午後1時半～4時半
会場	盛岡市中ノ橋通 1-1-10 プラザおでって 3階おでってホール
参加費	無料
参加申し込み方法	別紙申込用紙にて FAX またはメールにてお申込み下さい。 ファックス 019-653-6699 電話 019-653-0001 (つどい事務局)
主催:事務局	消費者信用生協 盛岡市南大通 1-8-7 (担当:総務部 八重畑)

※参加は会場出席のみとなります。(オンライン参加はできません)

— * — * — * — * — * — * — * — *

